



家族が本校出身ということもあり本校に入学を決めました。最初は別の部活に入っていました。先輩や先生に声をかけていただき1年生の秋に入部しました。学校で作るジェラートのパッケージは私が描いたのですが、まだ納得していないので、卒業までにもっと良いものを描きたいです。(3年生、長友 碧音さん)



オープンキャンパスで先輩方一人一人が牛を見ている姿にすごいと感じ、本校で酪農を学びたいと思いました。大分県で開催された共進会では農家さんの牛を引かせてもらい、初めての牛でも怖がらずにリードできたことが一番の思い出です。将来はトリマーになりたいので牛洗いの経験を存分に活かします。(3年生、大田 音彩さん)



寮に入って自立したいという思いと、牛が好きという理由から本校に入学しました。牛乳が大好きで、どのように牛乳が作られているのかということにも興味があり入部しました。まだ牛が少し怖いので慣れることを目標に頑張ります。将来の夢はまだ決まっていませんが、さまざまなことを今から勉強します。(2年生、長友 綾音さん)



牛のことをいろいろ知りたいと思い本校を選びました。実家は和牛繁殖農家で、将来は継ぎたいと思っています。普段やらない搾乳作業で、和牛とは違う乳牛の可愛さに癒やされています。卒業までに学校で取得できる資格はすべて取れるように頑張ります。(1年生、種田 蓮さん)

県内の農業高校のうち共進会でも高成績を収めている本校を選びました。競走馬関連の仕事に就きたいので頭絡の装着方法などを活かせるように頑張ります。先輩方はかっこ良く、知識も技術もまだまだ及ばないので、さらに努力して今の3年生のようになりたいです。(1年生、山之口 桜樹さん)



酪農に憧れや興味を抱き、実践をとおして酪農を学ぶ学生達は今、何に興味を持ち、どのような活躍をしているのか？
未来の酪農業界を担う期待の星を紹介！

NO.20

宮崎県立高鍋農業高等学校



概要

宮崎県立高鍋農業高等学校 酪農経営研究部
1年生2名、2年生2名、3年生5名、計9名
繋ぎ牛舎(搾乳牛13頭、乾乳牛1頭、育成牛10頭、子牛6頭)
活動内容：日々の乳牛の管理や調教を行ない、共進会では数々の賞を受賞している。また、宮崎県独自の算定方法から乳価の計算など経営目線からも酪農を学ぶ。
担当教諭：宮田 和行先生 (取材=小川)



叔父が酪農家で、小さい頃から手伝ううちに牛に興味が出てきて本校を選びました。今年の1月まではサッカー部でしたが、授業の実習などを通じてさらに酪農の魅力に気づき、もっと牛を知りたいと思いこの部へ入部しました。牛を洗って磨きをかけ、共進会に向けて準備する作業が楽しいです。(2年生、一色 惺瑛さん)



幼い頃に体験した乳搾りで牛に魅力を感じ、牛とたくさん触れ合えるこの部活に入部しました。卒業後は調理の専門学校に進学し、将来は自分で牛を飼って、牧場の隣でアイスやジェラートを製造販売することが夢です。(3年生、桑原 初穂さん)

ジェラート作り
今年から運営開始した「アイスクリーム研究所」では、本校で搾られた生乳を使用してミルクジェラートを作っている。校内の自動販売機などで販売している。



全寮制ということもあり、ほかの農業高校ではなかなかできない夜の分娩管理など貴重な経験ができます。生徒達には、たくさんの人と関わって、チャレンジの心を忘れずに夢を諦めず、それを叶えられるようになってほしいです。(宮田 和行先生)



オープンキャンパスに参加した際に牛が可愛いと思い入学を決めました。授業の実習だけでは経験できない夜間分娩に立ち会えたことが思い出です。将来はドルフィントレーナーになることが夢です。ここで学んだ観察力などを活かしたいです。(3年生、部長・長友 心雪さん)



実家が和牛繁殖農家ということもあり、高校でも牛と接したかったので本校に入学しました。和牛にはない搾乳などができるこの部を選びました。夜間分娩に立ち会えたのが一番の思い出です。11月に共進会があるので良い成績を残したいです。(3年生、伊藤 真央さん)

学生牛部は今!